

あわくら 歴史街道

西栗倉村の誕生と 初代村長河野音五郎氏を偲ぶ

慶長8年(1603)江戸幕府が成立してから、265年を経て幕府は終息し、慶応4年を明治元年と改元されて、御一新の制札が各村々に建てられました。明治4年全国一斉に府県の誕生と共に、本村の大茅、影石、塩谷、筏津、知社村は明石県、坂根、長尾村は生野県とそれぞれの管轄下となっていました。同年11月に全村が北条県に、現在の岡山県になったのは明治9年4月のことでした。

かたや昔の農民の代表であった庄屋、年寄、百姓代、名主等の所役は明治5年4月廃止され、郡に郡長、各区に区長、戸長、副戸長、庄屋を里庄とすることに改められています。

明治11年9月には太政官布告によって、岡山県は1区31郡1,790町村となり、岡山に区役所、各郡に郡長、各村へ戸長職をおくことになり、漸時地方行政の組織体制が整ってきた訳で、西栗倉村の誕生もこの様な変遷の後、村としての基盤が築かれ名実共に確実な歩みを続けることになっていったのです。

西栗倉村の誕生と共に、新体制による初代村長は河野音五郎氏で、明治22年(1889)7月18日村議会(選挙会)で名誉職で当選、直ちに県知事に対し認可を求め、同7月27日正式就任されています。

河野音五郎さんの人柄、略歴等について紹介します。河野さんは、長尾村(中土居)人で、嘉永3年(1850)8月8日父権右衛門さんの長男として出生、明治2年20才で播州千草村(現兵庫県千種町)平瀬家二女と結婚されています。この頃音五郎さんの身長は5尺6寸(約170cm)体重22貫(82.5kg)で、当時は筋骨隆々とした体躯だったことがうかがえます。

明治4年から同14年までの間に四男一女を儲けられて子宝にも恵まれました中で、同11年父権右衛門が戸長職依頼免職の後を受けて家督を相続されています。これより2年前の8月深夜火災によって住み馴れた居宅も焼失と(この時の被災住宅6戸、棟数26)いう災害に遭遇されていますが、多分焼損戸数も含まれての不幸な出来事だったのでしょう。しかし、翌年4月居宅、土蔵、納屋等再建されています。その後29歳の若さで持前の才能敏腕を発揮されて、長尾村用掛を降出しに郷土のために活躍されています。

(経歴等の紹介は次回)

参考資料、西栗倉村史、薦廬舎香露誌



初代村長 河野音五郎氏

人の動き 平成17年11月1日現在

●人口 1,704人(-11) ●10月中の移動
男 814人(-3) 出生 1人 死亡 4人
女 890人(-8) 転入 1人 転出 9人
●世帯数 547戸(-4)

お誕生おめでとう

國里 凌央 ちゃん 11月11日生まれ(別府)
お父さん 哲也さん
お母さん 留美さん
森下 陸史 ちゃん 11月9日生まれ(別府住宅)
お父さん 幸太さん
お母さん 知恵さん

幸せ多い人生を

青木 伸也 さん(中土居)
(新免) 円 さん(美作市)

お悔やみ申し上げます

小林ふみよ さん(大茅) 10月27日 87歳
岡元 太一 さん(知社) 11月8日 77歳

善意の窓 (村社会福祉協議会から) 平成17年10月20日~17年11月19日

おめでとうございます

大茅 井上 幸則 様 二男 大雅様 誕生内祝
引谷 青木 桂子 様 長女由香利様 結婚内祝
猪之部 河野 雅彦 様 長男雅俊様 結婚内祝
坂根 太田 雅之 様 二女 歩様 結婚内祝

お大事にしてください

坂根 宮本 節子 様 本人 退院内祝
別府 小林 康史 様 本人 退院内祝
猪之部 井上 季子 様 本人 退院内祝
別府 小椋 順次 様 本人 退院内祝
坂根 吉田きしよ 様 本人 退院内祝
別府 小林まち子 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

坂根 宮本 節子 様 亡夫 政一様 香典返し
大茅 小林 治彦 様 亡母 ふみよ様 香典返し
坂根 檀原 重男 様 亡妻 利津子様 香典返し

福祉活動に

消費生活問題研究協議会 様
ふれあいまつりバザー収益金の一部

今月の村税

固定資産税(第4期)
国民健康保険税(第7期)

納期限: 12月26日

納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。
また、口座振替の場合は残高確認など、よろしく
お願いいたします。

お問い合わせ先: 西栗倉村役場総務企画課